

山形県環境保全協議会

令和8年度山形県環境保全推進賞受賞企業

山形県知事賞	株式会社柿崎工務所グループ T P R 工業株式会社
--------	-------------------------------

環境保全推進賞	株式会社永田プロダクツ 株式会社ヤマザワ 若乃井酒造株式会社
---------	--------------------------------------

選考委員特別賞	株式会社グリーンエース
---------	-------------

環境保全推進賞山形県知事賞

株式会社柿崎工務所グループ（新庄市）

総合建設業・発電事業・林業 代表取締役社長 柿崎 和朗

カーボンニュートラルへの柿崎工務所グループの取組み ～ もがみ木質バイオマス発電プロジェクト ～

株式会社柿崎工務所グループでは、森林資源の有効活用と再生可能エネルギーの普及とともに、森林の再造林に取り組むことで、林業の活性化や雇用の創出を促進し、カーボンニュートラル社会の実現と地域活性化に貢献しています。

もがみバイオマス発電株式会社では、山形県最上エリアを中心とした森林及びグループ所有林の森林資源を有効活用するサプライチェーンを構築しており、年間約 72,000t のバイオマス燃料を集材して木質バイオマス発電を行っています。また、新庄市と「災害時における電気の供給等の協力に関する協定」を締結しています。

マルカ林業株式会社では、育苗したカラマツを伐採した山林に植林することで、再造林率 100%を達成しています。

さらに、株式会社柿崎工務所では、天童市及び宮城県大郷町にメガソーラー発電施設を設置しています。株式会社マルカでは、産業廃棄物である無機性汚泥のリサイクル事業を展開しているほか、新庄ニューグランドホテルでは、木質バイオマスボイラーを導入し、マルカ林業株式会社で製造した木質チップや建設廃材チップを燃料として活用しています。



もがみ木質バイオマス発電所



バイオマス燃料（木質チップ）

環境保全推進賞山形県知事賞

T P R工業株式会社（寒河江市）

製造業 代表取締役社長 鮎澤 秀樹

廃棄物削減・省資源に依る環境保全活動と脱炭素社会の実現に向けた継続的取り組み

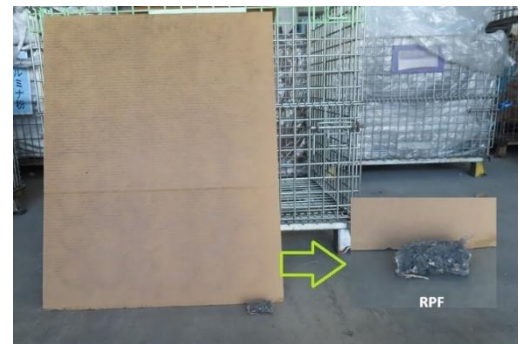
2003 年に ISO14001 認証を取得し、脱炭素社会の実現に向けて継続的な環境保全活動に取り組んでいます。CO₂排出量については、2030 年度までに 2013 年度比 50%削減、2045 年にはカーボンニュートラル達成を目標に掲げており、2021 年度に工場屋根にメガソーラー発電設備を設置するとともに、非化石証書の購入を進めた結果、2025 年度には 2013 年度比 31%削減を達成しました。

廃棄物の削減については、廃段ボールやビニールを RPF 原料化し、さらにプラスチック廃棄物を再生プラスチックとしてリサイクルすることで、2025 年度には 2013 年度比で焼却処分原単位 60%削減、焼却処分量 71%削減を実現しました。また、鋳造工程から発生する鉍滓を路盤材としてリサイクルすることで、2025 年には 2013 年度比で埋立処分原単位 42%削減、埋立処分量 58%削減を実現しました。

水使用量の低減については、自動市水供給システムの設定値を見直し、DX 推進の一環として設置した流量計のデータを社内で常時監視することで、2025 年度には 2013 年度比で市水使用原単位 27%削減、市水使用量 47%削減を実現しました。



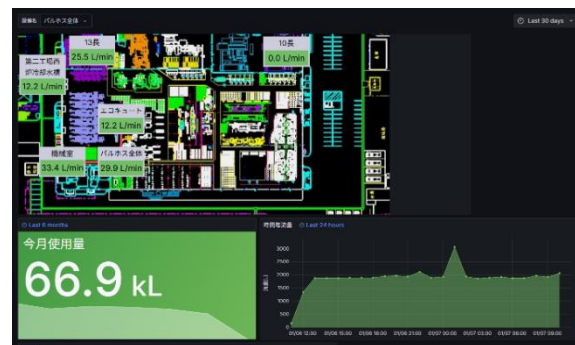
工場屋根に設置するメガソーラー発電設備



油付段ボールを RPF 原料化



鉍滓を路盤材としてリサイクル



市水使用量 MAP

環境保全推進賞

株式会社永田プロダクツ（酒田市）

自動車リサイクル部品卸売業 代表取締役 永田 則男

中古車から使用済自動車までのトータルのな自動車リサイクル

1967年に創業して以来、使用済み自動車の適正処理と、自動車リサイクル部品の生産・販売を柱に、地域に根ざした自動車リサイクル事業を展開しています。

2005年の自動車リサイクル法施行時には、解体業・破砕業の許可及びフロン類回収業の登録を受け、現在は年間約6,000台の使用済み自動車を受け入れ、約36,000点のリサイクル部品を国内外へ供給しています。また、再利用可能な車両については整備後にリースやレンタカーとして活用するほか、使用済み自動車から取り外した部品については品質確認を行ったうえで全国の販売ネットワークを通じて供給しています。さらに、再利用が難しい部位についても、鉄、非鉄金属、レアメタル等を細かく分別し、資源として有効活用しています。

こうした取組みを通じて、資源循環、CO₂排出量の抑制、廃棄物の削減に努めるとともに、会社見学の受け入れや地域社会とのつながりを大切にしながら、持続可能な社会づくりに貢献しています。



本社外観



リサイクル部品（部品倉庫内）



人の手とマルチ解体機を組み合わせた精緻な解体



リボーン・カーリース（やまがた環境展にて）

環境保全推進賞

株式会社ヤマザワ（山形市）

食品スーパーマーケットを核とする小売業 代表取締役社長 古山 利昭

ヤマザワの環境保全活動への取り組み

脱炭素に向けた取り組みとして、2023 年から「ソーラーPPA モデル」による太陽光発電システムを 62 店舗中 19 店舗に導入し、発電された電力を活用することで、CO₂排出量の削減に大きく寄与しています。

また、省エネ性能に優れた什器やリーチインケース、空調機器の計画的な更新に加え、自社物流センターを活用した効率的な店舗配送により輸送時の CO₂排出量の削減にも取り組んでいます。廃棄物削減の取り組みとしては、全店舗で発生する魚あら・肉脂・野菜くず等や、惣菜の揚物等に使用した植物食用油を回収し、食品残渣は飼料や肥料へ、廃食用油はインク原料や燃料へとそれぞれ再資源化しています。

さらに、お客様に対しては、店舗へのリサイクル BOX 設置による発泡・透明トレイ等の回収やマイバック持参運動を推進することで、脱炭素化に向けた取り組みへの積極的な参加を呼びかけています。



店舗屋根に設置する太陽光発電システム



省エネ性能に優れた什器やリーチインケース



各種回収ボックス



ペットボトル回収機

環境保全推進賞

若乃井酒造株式会社（飯豊町）

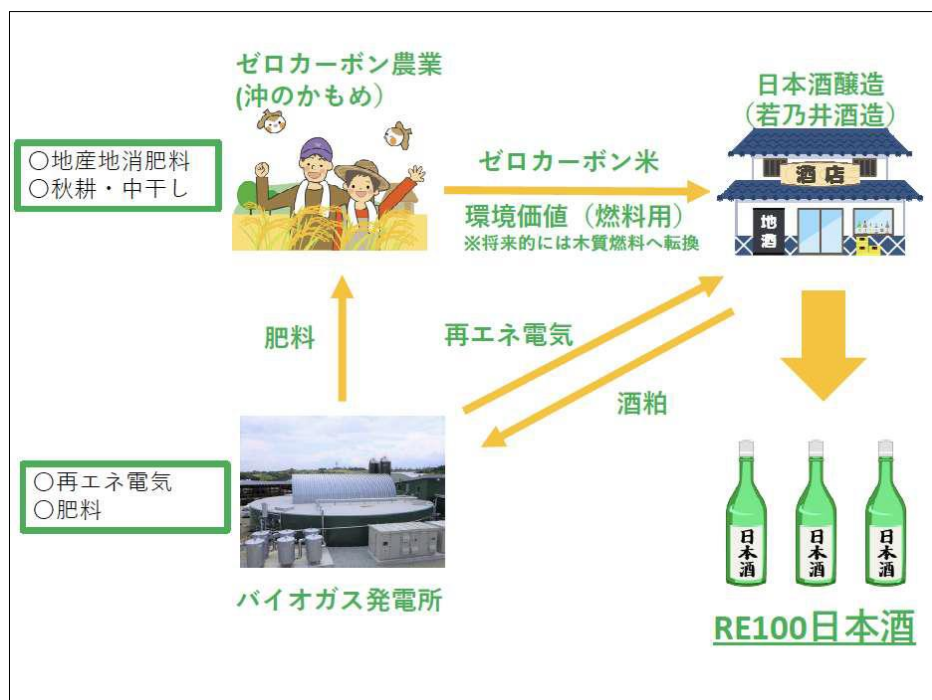
清酒製造業 代表取締役 大沼 秀和

環境にやさしい農業と産業連携による持続可能な地域社会づくり ゼロカーボン日本酒「永遠酔」

ゼロカーボン日本酒「永遠酔」は、飯豊町で育てられた山形県産ブランド米「つや姫」を原料にしています。米づくりにおいて、農業生産法人の協力のもと、秋耕や長期中干し等の農法を取り入れるとともに、町内で稼働するバイオガス発電施設から排出される消化液を稲作肥料として活用することで、水田由来の温室効果ガス排出量の低減を図っています。これらの温室効果ガス排出削減の取組みについては、J-クレジット制度による認証申請を行い、カーボンクレジットの創出を通じて、生産者及び地域社会における新たな価値創出を図っています。

また、酒蔵で使用する電力には同バイオガス発電施設で発電した再生可能エネルギーを活用し、熱エネルギーについてもカーボン・オフセットを用いることで、ゼロカーボン日本酒「永遠酔」を2025年に商品化しました。

これら環境負荷の低減と地域資源の有効活用を軸とした連携により、循環型社会の構築と持続可能な地域づくりを推進しています。



選考委員特別賞

株式会社グリーンエース（酒田市）

農作物加工品の製造及び販売 代表取締役 中村 慎之祐

未利用食材アップサイクル事業「UPVEGE」と 独自の粉末加工技術による食品ロス削減と資源循環システムの構築

2018年の創業以来、生産・加工現場で発生する未利用野菜を買い取り、自社技術で粉末化し、食品メーカーや小売店と連携して商品化・販売を行う、一貫したアップサイクル・サプライチェーンを構築しています。

独自の粉末加工技術は、加熱空気と過熱水蒸気（100℃以上の蒸気）を組み合わせた粉碎システムを採用しています。気流によって原料同士を高速で衝突させることで、わずか数秒～数分の間に「乾燥・粉碎・殺菌」を同時に行う加工プロセスを確立しました。その結果、色や香りについては生原料に近い状態を維持でき、一般的な熱風乾燥粉末と比較して高い栄養価の保持を実現しています。他社粉末との比較において、「かぼちゃのビタミンEは5倍」「ほうれん草のビタミンAは217倍」「トマトのビタミンCは109倍」の栄養成分残存を実証しています。

また、社会全体へのアップサイクル浸透を目指し、「フードテック官民協議会 アップサイクルフードワーキングチーム（WT）」を発起人として設立しました。アップサイクルの定義やルールの詳細化に加え、信頼性の高い認証制度の構築等に取り組んでいます。



未利用食材アップサイクル事業「UPVEGE」



自社技術で粉末化



アスパラのごろっとチーズケーキサレ



開発商品